

ナーミンとの民話交流会

酒井 董美^{ただよし}

ナーミンとは奈良市にある民話の語りのグループの愛称である。正式の名称は「奈良の民話を語りつぐ会」(代表・小西雅子氏、33名)という。竹原威滋・奈良教育大学名誉教授の指導のもとに平成22年4月1日に誕生している。

筆者は令和元年10月15日に招かれて、この会で話したり、奈良の伝説地を案内してもらったりと親交を深めたのが縁で、古都奈良の民話グループであるナーミンと神話の国である島根県の民話グループとのオンラインによる交流会をしようということになり、この14日に行われた。交流会は午後二時に始まり、四時に終了したが、実質的に中心になってグループ間の連絡調整に当たられたのは、ナーミン代表の小西雅子氏であった。

この呼びかけに応じて島根県側で参加したのは、出雲市大社町の「いずも民話の会」と、松江市大庭町の出雲かんべの里に属する「とんと昔のお話会」の二つのグループであった。



上の写真はそのときのオンラインの画面であるが、交流してみれば、実際のところ、奈良と島根と遠く離れた距離を全く感じさせない、まるで同じ会場の隣に座っている仲間同士のような、親しみのある感じで終始できた。コロナ以来、定着してきたオンラインのよさであったのかも知れない。

簡単に流れをプログラムから述べておくと、1、始めに(民話交流会に至った経緯について)小西雅子代表(1分)。2、お話し会①いずも民話の会(4タイトル・32分)、②奈良の民話を語りつぐ会(6タイトル・23分)、③とんと昔のお話し会(5タイトル・29分)。3、民話グループ情報交換(活動の様子など・15分)、4、まとめ(筆者・20分)。

今回の会は、事前のやり取りで、各グループに割り振られた持ち時間が決まっております、個々の語り手のタイトルと時間が資料として配信されていた。進行は基本的にはスムーズに流れていたものの、最初のところは連絡が十分に理解されてなかったのか、ついつい時間をオーバーしながら、まだまだ話そうとする方もいたので、筆者の方でストップをかけざるを得ない一幕もあった。事前に各グループ内で、各人の持ち時間が徹底していたかどうか問題を感じた。決められた時間内で終えないと、他のグループに影響が出て語る時間がなくなる場合も出てくるからである。次回にはこの点を徹底しておく必要があると思われる。

それはともかく、方言を生かした語りの交流は、温かさにあふれ、お互いのグループ間に友情が芽生え、大成功だったと確実に断定できた。(元島根大学法文学部教授)